

糖尿病から目を守るために

糖尿病は血液中の糖が増えすぎてしまい、いろいろな異常を引き起こす病気です。血液中に糖が増えると血管を傷つけたり、血液がうまく流れず、血管が詰まりやすくなったりします。

日本国内で糖尿病予備軍、あるいは糖尿病の人は成人の6人に1人といわれています。想像以上に高い数字ですね。初期の糖尿病は自覚症状がほとんどないため軽視されがちですが、血糖の高い状態が続くことで、全身にいろいろな不都合が生じます。

知らず知らずに症状が進行すると、視力低下など深刻な状態に陥ってしまうこともあります。糖尿病は怖い病気なのです。

では、どうして目が悪くなるのでしょうか。失明の原因として、緑内障に次いで2番目に多い糖尿病網膜症について話します。目の一番奥には網膜という神経の膜があり、多くの血管が

走っています。その血管が詰まったり、出血したりすることによって、網膜に酸素や栄養がいかなくなり、障害が出てきます。進行すると、突然大出血が起こり失明に至る場合もあります。初期の出血や血管の詰まりだけでは自分で目の異常に気付くことは困難です。自覚症状がないからと安心していて、急に見えづらくなってしまつと、日常生活の質が極端に悪くなつてしまいます。

自覚症状だけでは、目の状態は分かりません。眼科では目の血管の状態を詳しく見るために眼底検査を行っています。また、定期的な検査を受けることによって、適切な時期に適切な治療を受けることができます。

早期発見により進行を食い止めるためにも、糖尿病を指摘されたら近くの眼科を受診し、定期検査を受けてください。